

LINE UP 今号の主な内容

台風第19号による被災者支援にご協力を	2
光と音で冬を楽しもう	3
みんなのすこやかナビ	6・7・10
さがみはら この1年	16

発行 ● 相模原市 〒252-5277 相模原市中央区中央2丁目11番15号
 編集 ● 総務局渉外部広聴広報課 ☎042-769-8200
 ホームページ ● <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/>
 携帯端末用 ● <http://mobile.city.sagamihara.kanagawa.jp/>

市の手続き、イベントや施設のお問い合わせに…



相模原市コールセンター

午前8時～午後9時 年中無休

☎ 042-770-7777



相模原市はSDGsを推進します

市の人口・世帯



人口 722,885人(57増)
 男 361,481人 女 361,404人
 世帯 327,239世帯(212増)

令和元年11月1日現在。()は前月との増減

東京2020大会 ブラジル・カナダ応援隊！

相模原市がホストタウンとなった2国のプチ情報を毎月1日号で市長が紹介します。

日本と季節が正反対のブラジルでは、真夏のクリスマスです。サンタクロースも半袖姿でサーフボードに乗って来るのかもしれないですね！

今日は両国のクリスマスについてです

どなたも穏やかによいクリスマスを過ごせますように



相模原市長 本村賢太郎



カナダのクリスマスは家族や友達と過ごすのが一般的です。街中がイルミネーションで彩られ、食卓にはターキーやクリスマスプディングが並びます。

問 オリンピック・パラリンピック推進課 ☎042-851-3248

笑いあう ささえあう

共に生きること。それは一人の人として、当たり前の日常を、誰もが自分らしく過ごせるように、互いの存在や気持ちを大切にしようこと。

共にささえあい
 生きる社会



詳しくは
 8・9面へ

12月3日～9日は障害者週間

市では、障害の有無にかかわらず、全ての人が共にささえあって生きる共生社会の実現に向けた取り組みを進めています。

問 障害政策課 ☎042-707-7055 FAX 042-759-4395

共にささえあい 生きる社会

市内で半世紀続くヘアサロンの日常。そこには、十人十色の人々が生きるこの社会で、自然体であること、人を受け入れることの大切さを考えるためのヒントがありました。

図 障害政策課 ☎042-707-7055 図 042-759-4395



オーナーの浅川雅之さん(中央)、和之さん(左)、美香さん(右)

おしゃれしたい気持ちは誰にだってある

「本人がどんなおしゃれをしたいか、感じ取ることを大切にしています」。初めて訪れる場所は誰でも緊張するもの。障害のあるお客さんの中には、立って歩き出してしまふ、うまく言葉で伝えられない人もいて、表現の方法もさまざまです。「気にしないで、そのままいい。立ったままだって切れますよ(笑)！」と自然体であることを受け入れ、明るく話すのは、オーナーの浅川雅之さんと一緒に、この店を切り盛りする息子の和之さん。その気持ちは接客方法にも表れています。シーズンに合わせたヘアスタイルやカラーの話をしたり、雑誌に載っている髪型を直接見せながら提案をしたり、手話ができれば、タブレットで素早く変換して、「便利だな〜!」と盛り上がりたり。その人の状態に合わせて丁寧に寄り添うことで心をほぐし、おしゃれをしたいという気持ちを引き出します。

こうした心遣いで安心感が生まれ、「どの人も3回目には心を開いてくれます」。どんどんおしゃれになり、楽しそうな姿に家族もびくきり。「皆さんが喜んでくれることは、何よりうれしいし、自分たちの支えにもなっています」と雅之さんも和之さんも声をそろえます。

街角のヘアサロンにある“ささえあい”



- ① この店を利用して2年になる常連さん。この日も朗らかな会話からカットを始めます。
- ② ここに通うようになってカラーリングも楽しむようになりました。おすすめを聞いて選ぶのが毎回の楽しみです。
- ③ 誰でも利用しやすい広々とした客席は、車いすのままでもカットが可能。
- ④ 月に1度の訪問理容でも、一人一人の好みに合わせたサービスを心掛けています。
- ⑤ 帰りは送迎車で自宅まで送り届けます。



ルピナスヘアー（西門商店街）
中央区相模原6-25-4 ☎ 042-704-8869
✉ lupinushair@uspot.jp
オーナーの浅川雅之さんは、自らも聴覚に障害があり、障害者の自立について長年にわたり、深い関心を持っている。母の代から家族でヘアサロンを営んで50年。熟練した技術で、障害の有無や世代の違いにかかわらず、誰もががoshayれを楽しめる店

「喜んでもらいたい」から自然とアイデアが生まれる

根底にあるのは、相手に喜んでもらいたいという気持ち。「そのために一生懸命できることを」と雅之さんは話します。例えば、在宅では汚れてしまうからと諦めてしまうカラーやパーマを楽しんでもらうために送迎を始めたり、一人一人に応じて個室として仕切れる工夫を店内に施したり。「ある

ものに人を当てはめていくのではなく、目の前にいる相手が喜んでくれるにはどんなものが必要か。そこから出てくる新たなアイデアを一つずつ形にしています」。小さな思いやりの積み重ねが、いつも朗らかな笑い声が飛び交う、居心地のよい空間をつくり上げています。

心に寄り添い、共に生きる

自分と違う境遇や、知らないことに会おうと無意識に心のバリアを張ってしまうことはありませんか。このヘアサロンのように相手のありのままを受け入れ、さりげなくお互いの存在や気持ちを大切に日常の積み重ねの中に、“共にささえあい生きる社会”を実現するための一つのヒントがあるのかもしれない。

災害時の共生を考える

とっさの助けあい “知っておくこと” が大切

台風第19号被害で、改めて考えさせられた備えの重要性。災害発生時、障害のある人は自力で避難することが困難なケースも多くあります。日頃から、地域の中で災害時の支援について確認しておくことが、とっさの助け合いの判断や迅速な避難行動につながります。

■具体的に備えたいこと・知っておきたいことが冊子になっています

障害者本人やその周囲の人が備えたいこと、知っておいてほしいことを障害のある人の当事者目線で紹介しています。



▲市HPからも見られます



障害政策課、NPO法人れんきょう（あじさい会館4階）で配布中

外見では、障害の有無が分かりづらいことも

外見からは障害の有無が分かりづらい場合でも、配慮や援助を必要とすることをマークで示している人がいます。あらかじめマークの意味を理解したり、近所などでそれらを身に着けている人の存在を意識したりすることは、災害時の助け合いに役立ちます。

知っておきたい ヘルプマークって？

外見では分からなくても、援助や配慮を必要としていることを周囲の人に知らせることで、援助を得やすくなるように作られたマークです。



イベント情報 障害者作品展

時 12月6日(金)～8日(日)
午前9時～午後4時(6日は正午から)
会 あじさい会館
※このほかにも、障害者週間の期間中のイベント情報を市ホームページに掲載しています。

